

**急募!**  
**獣医師**  
畜産県・熊本で

5

獣医師不足に悩むのは熊本県だけではない。肉牛と乳牛ともに飼養頭数が全国1位の北海道や、肉牛の飼養頭数全国2位の鹿児島県も事情は同じだ。全国の獣医学系大学を卒業する約1千人から新卒獣医師を獲得する自治体同士の競争は激化している。

●年齢制限を緩和

鹿児島県は4月、獣医師資格を持つ職員が11人不足しているとしてプロジェクトチームを設置した。09年度から獣医師の処遇を改善し、初任給に初任給調整手当を上乗せする。大学卒業10年後まで月3

**新卒困い込み**

**獲得に自治体同士競う**

万円、11～15年後は5万円、2万5千円。女性獣医師のため、時差出勤や短時間勤務制度も導入する。

採用試験の試験日を2日間から1日に短縮し、1カ月早めて今年7月、鹿児島と東京、北海道で実施した。受験年齢制限も39歳以下から49歳以下に引き上げた。08年度は前年度の2・4倍の27人が受

験し、24人が合格した。北海道は09年度、獣医師を72人採用する計画だ。道人事業は「計画通りの採用は厳しい」というが、受験年齢制限を36歳未満から59歳未満に引き上げたところ、7月の採用試験の応募者数は41人。過去5年間の平均人数25・6人から大幅に増えた。熊本県も8月の採用試験か



県産肉の安全性確保のため獣医師の役割は重要だ。写真は褐毛（あかげ）和種（あか牛）＝県農業研究センター

**食の安全守る役割 不可欠**

ら受験年齢制限を35歳未満から40歳未満に引き上げた。県人事課によると応募者数は20人弱。過去5年間の平均10人前後を上回り、採用定員の7人程度が合格したという。

産業動物医の採用は苦戦している。県農業共済組合本所家畜課によると「毎年募集するが、採用試験の前に辞退されてしまう」。新卒者に加え、中途退職者や育児で職場を離れた女性獣医師の復職研修も実施することにした。

小動物医の場合、新卒獣医師にとって動物病院への就職は「病院を開業するための修業の場なので、移動が激しい」と松田光太郎・熊本市獣医師会長(57)。新卒者の都会志向も強く、吉田獣医科病院の吉田博さん(38)によると「東京や大阪は症例数が多く、研究会の開催も頻繁であり、人気がある」。

●偏在化と高齢化

県が02年3月に発表した「獣医療を提供する体制の整備を図るための熊本県計画

書」によると、98年度に産業動物医は200人いた。減少傾向の中、10年度には146人を確保するとの計画だったが、06年度に実際に確保できたのは141人。

県畜産課は「問題は地域偏在と高齢化」と説明する。城南家畜保健衛生所管内の球磨・芦北地域は計画書通り25人の獣医師がいるが、人吉球磨地域に偏っており、芦北はほぼゼロ。県共済によると、新卒の産業動物医が入らないと、10年後の産業動物医の年齢構成は60歳以上が約7割となり「十分に活動できる産業動物医は40～50人に減る」。

県畜産農業協同組合連合会長兼県獣医師会長で獣医師の穴見盛雄さん(60)は「『食の安全を重視する』といいながら、自治体も農業団体も検査態勢は心もとない。『食の安全』の確保は今後も重要で、獣医師の存在意義は高まるだろう。教育面を含め政府が本腰を入れるべきだ」と訴える。

(磯部佳孝)